

## 令和2年度 復興まちづくり検討会

(三重県県土整備部都市政策課、三重県・三重大学 みえ防災・減災センター)

### 1 目的

市町では、大地震被災後、早期に的確な復興まちづくりに着手できるように、過去の災害からの復興まちづくりにおける課題・教訓等を踏まえて、復興事前準備に取り組む必要があります。本検討会では、復興体制と復興手順について参加者が検討を行い、復興事前準備への理解を深めることを目的とします。

### 2 内容

「復興まちづくりのための事前準備ガイドライン（平成30年国土交通省）」や他県で実施の復興手順の模擬訓練演習を参考にしながら復興手順を学ぶ演習の手引書（マニュアル）を作成していきます。

### 3 検討会日程

第1回 令和2年11月12日

第2回 令和3年2月4日

第3回 令和3年3月17日

## 以下各回事項（★：主な作業）と次々頁から各回詳細内容

**第1回** 令和2年11月12日（木）13時半～16時

三重大学 地域イノベーション研究開発拠点A棟3階307 研修・会議室

1 浅野先生ミニ講演 大規模自然災害に備えた事前の復興準備

2 復興まちづくりの取組

(1) 復興まちづくり検討会の概要

(2) 国交省 復興まちづくりのための事前準備ガイドライン

3 愛知県の訓練の概要と三重県版演習での追加提案

4 グループディスカッション

テーマ1 愛知県の訓練でよさそうに思えることなど（全般・各段階）

テーマ2 三重版の演習でできたらよいと思うことなど（全般・各段階）

**第2回** 令和3年2月4日（木）13時半～15時半  
公益財団法人三重県建設技術センター 4階研修室

I 復興まちづくり検討会の演習の位置づけ

II 模擬演習(主部分・前半)

- 1 演習の全体像
- 2 配付資料等
- 3 第2,3回検討会で扱う市(地区)の状況
- 4 被害想定とその他留意事項
- 5 役割分担
- 6-1 被害情報が乏しい中での初動期の作業  
(のうち家屋被害概況調査の実施計画の作成 ★)
- 6-2 第一次建築制限区域（建築基準法第84条建築制限区域）の指定 ★
- 6-3 第一次建築制限区域の指定時に必要な都市復興基本方針の作成
- 6-4 津波の特記

III 模擬演習(前半)を終えて意見交換・発表

**第3回** 令和3年3月17日（水）13時半～16時  
三重大学 地域イノベーションホール

I 第2回検討会のふりかえり

II 模擬演習(主部分・後半)

- 6-5 追加状況付与
- 6-6 第二次建築制限区域（被災市街地復興推進地域）の決定ほか ★
- 6-7 第二次建築制限区域の決定時に必要な復興まちづくり基本計画(骨子案)の作成
- 6-8 建築制限と併行する建築住宅関係  
(のうち復興まちづくり相談の実施計画書(うち問答集質問項目(建築制限) ★)
- 6-9 その他導入事業の検討

III まとめ

被災地での実施例ほか 模擬演習(後半)・来年度以降に向けた意見交換・発表

## 令和2年度 **第1回** 復興まちづくり検討会 結果

**1 日時:** 令和2年11月12日(木)13時半～16時

**2 場所:** 三重大学 地域イノベーション研究開発拠点A棟3階 307 研修・会議室

**3 参加者:** 都市政策課で募った結果、9市町(桑名・鈴鹿・亀山・津・伊勢・鳥羽・南伊勢・伊賀・名張) 18人が構成員となった。第1回検討会は、南伊勢町以外の8市15名が参加(鳥羽市も1名欠席)。

### 4 内容(座学)

(1)浅野先生ミニ講演 大規模自然災害に備えた事前の復興準備:復興対策は避難所運営より後の課題であり長丁場。三重県に合った演習を予め考えておくことが必要。先例では住民も巻き込んで展開。

(2)復興まちづくりの取組

①復興まちづくり検討会の概要:平時にできることから準備。演習を通して復興手順や復興体制を学ぶとともに、市町の演習実施の助けとなる事務手引作成を検討。

②国交省 復興まちづくりのための事前準備ガイドライン:概要版で説明。演習はこのうちの一部。

(3)愛知県の訓練の概要と三重県版演習での追加提案:全体像～2回の建築制限を対象とする訓練。

### 5 内容(グループディスカッション)

・テーマ 愛知県の訓練でよさそうに思えることなど・三重県の演習でできたらよいと思うことなど・感想も含め感じたこと・三重県版演習に求めること 等自由に。

・意見のいくつか

奥尻町の例を参考に、人口流出がないような復興計画を検討してはどうか  
訓練どおりに被災状況を3日～2週間で調査、建築制限地域を抽出できるか  
復興にかかる(市町内)臨時的な体制をどう構築するか

判断基準があるのがよい/津波被害に関する基準も必要

建築制限区域の指定について、住民同意は必要?

愛知と三重 人口規模の違い

(他に、住民の対応への関心や勉強する必要性を感じた等の意見あり)



## 令和2年度 **第2回** 復興まちづくり検討会 結果

**1 日時:** 令和3年2月4日(木) 13時半～15:40

**2 場所:** 公益財団法人三重県建設技術センター 4階 研修室

**3 参加者:** 都市政策課で募った9市町(桑名・鈴鹿・亀山・津・伊勢・鳥羽・南伊勢・伊賀・名張)18人の構成員中8人が参加(複数人参加市町で1人とするなど各市町での新型コロナウイルス感染症防止対策等を踏まえた結果による)

### 4 内容(模擬演習・前半部分)

(1)作業1 6-1 被害情報が乏しい中での初動期の作業:家屋被害概況調査の計画書の作成。

・震度情報だけをもとに、第一次建築制限に必要な調査について(期間・体制・調査地区の選定方法・調査数・調査方法)を決めた。

(2)作業2 6-2 第一次建築制限区域の指定

・家屋被害概況図をもとに愛知県の基準を参考に区域を画定した。

・概ね基準を適用し、さらに何らかの勘案をする班もあった。

(3) 6-3 災害時に(2)と同時に行う都市復興基本方針、6-4 津波の場合の特記 については説明に留めた。

### 5 内容(模擬演習前半を終えて意見交換発表)

・テーマ 作業結果発表のポイント、演習でよかった点/よくなかった点などを整理。

・意見のいくつか

事前準備の必要性(判断基準・知識、まちづくり以外の業務の調整)

災害時の時間の切迫性、実際にできるかどうか

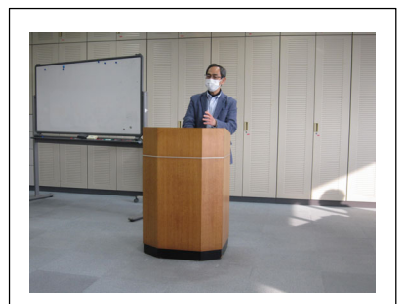
住民対応・連携の必要性

・浅野先生講評

被災の原因をふまえた復興となればよい

制限が目的でなく、検討するための時間稼ぎ。複数の法律への対応

今後はドローン調査・AIの活用



### 6 その他

・資料では事前の打合せにより、「作業のヒント」に「作業のヒントのヒント」を追加

## 令和2年度 **第3回** 復興まちづくり検討会 結果

**1 日時:** 令和3年3月17日(木)13時半～16時

**2 場所:** 三重大学地域イノベーションホール

**3 参加者:** 都市政策課で募った9市町(桑名・鈴鹿・亀山・津・伊勢・鳥羽・南伊勢・伊賀・名張)18人の構成員中9人が参加(複数人参加市町で1人とするなど各市町での新型コロナウイルス感染症防止対策等を踏まえた結果による)

### 4 内容(模擬演習・後半部分)

(1)作業1 6-6 第二次建築制限区域の指定と6-7 復興まちづくり基本計画の土地利用構想図の作成  
・第2回検討会使用の街区別から詳細化された棟別被害状況を受けて建築制限区域を画定させた。  
・地区の骨格的な都市施設を決め土地利用構想図を作成するした。災害公営住宅エリアも含めた。

(2)作業2 6-8 建築制限と併行する建築住宅関係(復興まちづくり相談の実施計画書(うち問答集質問項目(建築制限)))

・行政の復興施策に対する相談体制の構築が必要になり(建築住宅関係も含め)、演習としてはそのうちの相談に応ずる者が用いる問答集の建築制限関係質問項目を検討した。

(3) 6-7 災害時に(1)と併行する都市復興基本計画(骨子案)、6-9 その他導入事業の検討 については説明のみに留めた。

### 5 内容(被災地での実施例の紹介、模擬演習を終えた意見交換・発表)

・テーマ 作業結果発表のポイント、演習でよかった点/よくなかった点などを整理。

・意見のいくつか

今後は地元の方にも検討会に参加してもらい協力してもらえる体制を整えておく  
復興まちづくりがイメージできるようになった

進行・資料への工夫のご提案もいただく(広めるため・理解促進のため)

・浅野先生講評

演習で扱った2か月間で先の方向性が決まる。スタートダッシュが重要

建築制限は日常業務にないこと・二つの法によるわかりにくさ

経験ない分を検討会等で補い、無駄にお金をかけず円滑に復興できればよい  
引き続き検討していく必要がある

### 6 その他

・資料では第2回同様に「作業のヒント」に「作業のヒントのヒント」を追加

